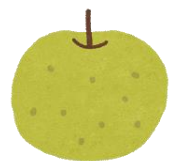


# 図書館だより



No. 5

平成 29 年 9 月 29 日発行

暑い暑い夏が過ぎ、心地よい涼しさを感じる秋がやってきました。みなさん、今年の秋はどう楽しめますか。今月の三連休には横浜の赤レンガ倉庫前広場で『パンのフェス 2017 秋 in 横浜赤レンガ』が行われ、台風の影響がありながらも多くのパン好きが集いました。さらに来月には『世田谷パン祭り』(10/8、9)『青山パン祭り』(10/14、15)が開催されます。ここ埼玉でも5月に「川越パンマルシェ」が開催されています。みなさんも暑いブームが起こっているパンのイベントに足を運んでみてはいかがでしょうか。きっとおいしい秋が楽しめるはず！



また 10 月には建築家ル・コルビュジエが生誕 130 年を迎えます。スイスで生まれ育ち、主にフランスで活躍したル・コルビュジエは20世紀の建築を育てた巨匠と呼ばれており、数多くの建築作品を生み出しました。そんなル・コルビュジエの生誕 130 年を記念して映画『ル・コルビュジエとアイリーン 追憶のヴィラ』が10月14日(土)より公開されます。インテリアデザイナーとしても著名な女性建築家アイリーン・グレイとの愛憎劇を描いた映画で、実際の建築物や家具を用いた映像美を楽しめるとのことです。

\*パン作りを気軽に楽しむ

596-オ 『YOMEのほったらかしパン』 大井 純子 || 著 宝島社

パン作りと聞いて、まず思うのは「手間がかかって大変そう」ということ。はじめにそう思ってしまうと、なかなか作る機会がなくなってしまいますよね。でも、お家で焼き立てのおいしいパンが作れたら素敵だと思いませんか。この本のレシピなら、なんと、こねずに 50 回まぜるだけ、それでおいしいパンが作れてしまうのです。「本当にそんな簡単にパンが作れるものなのかな」と焼き上がるまではドキドキしますが、焼き上がりのパンを頬張ると、おいしさが口の中いっぱい広がります(実際に作ってみて、おいしさに感動しました)。菓子パン、総菜パンとレシピの種類も豊富なので、色々な味を作って楽しんでください。

\*ル・コルビュジエが創り上げたもの

593-ル 『もっと知りたい ル・コルビュジエ』 林 美佐 || 著 東京美術

「作品を知ると興味がわく。さらに作家の人となりを知ると、作品の見え方も変わってくる」という本書の言葉のとおり、ル・コルビュジエの生涯を追いながら、併せて、彼の作ってきた建築作品を丁寧に解説しています。ル・コルビュジエの建築作品はパッと見ただけでも目を惹き、私たちを楽しませてくれますが、そこにどのような技術が施されていたり、想いが込められているかを知りながら鑑賞していると、よりひとつひとつの作品から魅力やおもしろさを感じることができます。建築に対する熱い思いがこもった言葉と共に、彼が手がけた建築の数々を旅するひとときを送ってみてください。

## 上野でル・コルビュジエと北斎を楽しむ

昨年、世界遺産に登録された国立西洋美術館の本館もル・コルビュジエが設計したものです。国立西洋美術館では、つい先日までイタリアの画家アルチンボルドの展覧会が行われていましたが、10月21日(土)からは『北斎とジャポニスム HOKUSAIが西洋に与えた衝撃』が始まります。モネ、ドガ、セザンヌ、ゴーガンをつくめた西洋の名作約 200 点と、北斎の錦絵約 30 点、版本約 60 点の計約 90 点(出品点数は予定、会期中展示替えあり)が展示されます。双方を比較しながら、それぞれの新たな魅力が感じられる展覧会です。ル・コルビュジエの設計した建物と“日本発、世界初”というこの展覧会、両方を楽しみに上野まで足を運んでみましょう。

721-カ 『北斎の富嶽三十六景』 大久保 純一 || 著 小学館

葛飾北斎の『富嶽三十六景』の中でみなさんがよく目にしているのは、通称、赤富士で知られる『凱風快晴』、“Big Wave”の名で知られる『神奈川沖浪裏』でしょうか。名前にピンとこなくても絵を見れば、「知っている！」と頷くはず。その三十六景(と題しながら全部で46枚あります)全てをこの機会に鑑賞してみませんか。構図のおもしろさ、描かれている人々の表情やしぐさのおもしろさ、富士山を眺めるおもしろさを感じられ、改めて北斎のすごさを思い知ります。

## 第4回 料理本レシピ大賞はこれだ!!

【料理部門:大賞】

『世界一美味しい煮卵の作り方』 はらぺこグリズリー || 著 光文社

【お菓子部門:大賞】

『白崎茶会のあたらしいおやつ』 白崎裕子 || 著 マガジンハウス

【料理部門:専門料理賞】

『新装版 包丁の教科書』 野崎洋光 || 著 新星出版社

【料理部門:絵本賞】

『おばけのてんぷら』 せなけいこ || 著 ポプラ社



596-ハ 『世界一美味しい煮卵の作り方』 はらぺこグリズリー || 著 光文社

表紙から食欲をそそられるこの本。世界一美味しい煮卵のほか、世界一美味しいトマトソースやバターチキンカレー、激ウマえびバターごはん、ホックホックのコロッケ、超旨い鶏手羽先のコーラ煮など、「もう絶対においしいじゃないか！」と思わせるネーミングがずらり。材料も作り方もシンプルで、さっそく今日から作ってみたくなります。デザートレシピも本格絶品ガトーショコラ、本気の自家製プリンなど、充実のラインナップ。主食もデザートもこの1冊さえあれば、完璧です。

## ✍ 日本の誇れる文豪たち ～近くて遠い昭和作家編～ ✍

『日本の誇れる文豪』、2 学期は「近くて遠い昭和作家編」です。今月紹介するのは太宰治です。『人間失格』や『走れメロス』など、みなさんもよく知る作品も多い太宰治。1 学期には彼の作品『桜桃』で読書会を行いました。参加してくれた人からはこの作品について様々な感想が飛び交い、盛り上がっていました。



太宰治(本名 津島修治)は 1909 年 6 月 16 日に青森県北津軽郡金木村で生まれました。そして、39 歳という短くも劇的な生涯を閉じるまでの間に数多くの作品を生み出しました。上に挙げた作品の他にも太宰文学の初期を代表する『晩年』、新たな作風を生み出した中期を代表する『満願』、未完の遺作となった『グッド・バイ』などは、太宰治を知るためにまず読んでおきたいところです。また、齋藤孝さんの著書『若いうちに読みたい太宰治』(筑摩書房)では、テーマ別に太宰文学を紹介してくれていますので、「太宰治を読んでみようと思うのだけど、どれが自分には合っているだろう」と迷った時におすすめです。

\*恋と革命のために ～家族三人、それぞれの生き方の果て～

913.6-ダ 『斜陽』 太宰 治 || 著 新潮社

スープを一さじ。最後の貴婦人であるお母さまは、その仕草さえも美しい。その美しさは、終戦後、東京のお家を捨て、伊豆の山荘へ引っ越してきてからも変わらなかった。しかし、もう家にはお金がなくなってしまったこと、お母さまの体は病に蝕まれてしまったこと、そうしたことがお母さまとふたりきりで暮らす私の心に重くのしかかる。

そんな折、戦地へ赴いていた弟 直治の無事を知る。しかし、生きて帰ってきた直治は、阿片中毒を再発しており、そこから抜け出すために今度酒を飲み歩く。お母さまも、直治も、私もみんな苦しい。そんな状況に絶望し、私はとても生きて行けそうにはない、そう思う一方で、密かに想いを寄せる M・C の元で暮らしたいと願う。次第に大きく大きくなっていく M・C への恋心。私はこの恋にどんな答えを出すのだろうか。

この作品が発表されたのち、「斜陽族」という流行語が生まれたといわれています。

\*全部、やめるつもりでいるんです ～戦後、太宰治の内にあったもの～

913.6-ダ 『グッド・バイ』 太宰 治 || 著

太宰治の後期作品 16 編が収められた短編集。『グッド・バイ』は、主人公がかつての女たちとの関係を精算するため、カラス声、怪力、大食い、だけどすごい美人のキヌ子と手を組むが、一筋縄ではいかないキヌ子に悪戦苦闘する。物語は彼の死により、未完のまま永遠に止まってしまうが、本文中の『女に惚れられて、死ぬというのは、これは悲劇じゃない、喜劇だ。いや、ファース(茶番)というものだ。滑稽の極だね。誰も同情しやしない。死ぬのはやめたほうがよい』というセリフと、太宰がこのすぐ後に玉川上水で自死したことを思うと深く考えさせられます。他の作品では、戦時中の疎開や困窮した生活など自身の体験から生まれたであろう思いが反映されており、戦争の苦しみ、絶望感など、当時の彼の心模様が様々伝わってきます。

\*私たちみんなの苦しみを、ほんとに誰も知らないのだから ～少女の心は忙しい～  
913.6-ダ 『女生徒』 太宰 治 || 著 今井 キラ || 絵 立東社

太宰治の『女生徒』に乙女心をくすぐる作品で知られるイラストレーター今井キラが挿絵をつけたコラボレーション本です。可愛らしいけれど、どこか物憂げな少女のイラストが物語にぴたりと当てはまり、太宰作品にあまり触れたことのない人でもスッと世界に入っていくことができます。

朝、目を覚まして、夜、眠りにつくまでの私の 1 日。セリフはなく、とめどなく“私”の心の内が綴られていきます。やりきれなくなったり、楽しくなったり、悲しくなったり、愛しくなったり、日のあいだにあちらこちらと忙しく揺れ動く私の気持ちは、時代が違っても同世代のみなさんの心を打ってくるものだと思います。おしゃれが好きで、些細なことにも敏感になって、とにかくたくさんの方に思いを馳せる、そんな私の言葉はみなさんの思いと重なる部分もきつと多いはず。今まで心に抱えながらも言葉で言い表せなかった気持ちを太宰治がスッと引き出してくれるかもしれません。

## 🌍 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 🌍

原田マハさんは小説家でありながらキュレーターの資格も持ち、美術に関する深い知識を持っています。その知識を生かして書かれた『楽園のカンヴァス』を読んだ時に絵画の世界にどっぷり引き込まれました。今月はその原田マハさんの『サロメ』(文芸春秋)を読みました。

今回の物語のキーワードとなる『サロメ』は『幸福な王子』の著者でも知られるオスカー・ワイルドの戯曲。躍りの褒美に銀の皿に載せた預言者ヨカナーンの首を所望するサロメ。その衝撃的なサロメの姿をより人々の心に刻みつけたのが英訳版『サロメ』の挿し絵でした。描いたのは若き才能と画力を持ったオーブリー・ビアズリー。19 世紀末のイギリスに現れたオスカーとビアズリー、ふたりの天才を切り離せない関係にした『サロメ』には私たちの知らないどんな背景が秘められているのか、物語はそこに迫っていきます。今回も読書の秋と芸術の秋を同時に楽しみながら、妖艶なサロメに引き込まれました。【今井】



朝晩に感じる肌寒さや、空気に含まれる甘い金木犀の香りに秋の訪れを感じられるようになりました。栗やお芋のお菓子で食欲の秋を味わい、さらにもっと何か“秋”を満喫できないかしらと手に取ってみたのが、詩集です。もの思う季節に“詩”を読むのも、なんだかよい取り合わせではありませんか？ ちょうどひとに薦められていた詩人の本が図書館に入っていました。『詩集 青い夜道』(911.5-ダ 田中冬二 || 著 日本図書センター) です。詩は、いつべんに読切りたくはありません。いつでも手の届く時とところにおいて、ちょっとした合間に 2 編 3 編を読み、声にだして読んだら面白そうなものには付箋でマーキングをしておきます。そうして、ひとに聞かれる心配のない夜にこっそり声に出して言葉の響きを確認めます。私にとって心に残る詩は、声に出した時にしっくりくるものが多いようです。ぜひ、皆さんも試してみてください。そうしてゆっくりとその詩集の持つ世界に浸り、その詩人の感性を感じながら、自分を取り巻く世界を改めて見直してみるのです。見上げた夜空に見つけられる星の瞬きだって、きっと違って見えるようになりますよ。【鈴木】